

健やかぐんま

vol. 50
2025 Autumn

P2-5

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2025ぐんま 開催報告

P6-8

財団からのお知らせ

- ・ 複十字シール募金活動を行っています
- ・ 群馬県健康福祉部長を表敬訪問しました
- ・ がん征圧月間のメディア掲載について
- ・ 中学生が職場体験学習に訪れました
- ・ 子宮頸がん予防啓発のため、無償で講師派遣を行っています
- ・ 第14回高崎美スタイルマラソン2025に協賛しました
- ・ 第35回ぐんまマラソンに協賛しました
- ・ リレー・フォー・ライフ・ジャパン2025ぐんまに参加しました



公益財団法人 群馬県健康づくり財団

リレー・フォー・ライフ・ ジャパン 2025ぐんま

開催報告

ぐんまからのメッセージ

(RFLJ2025ぐんま 10.12開会式より)

リレー・フォー・ライフは、がん患者さんやそのご家族を支援し、がん征圧を目指すチャリティ活動です。

「がん患者は24時間、がんと向き合っている」という想いを共有し、ともに歩き語らうことで生きる勇気と希望を生み出したいとするこのイベントは、現在、世界約36か国約1,800か所で開催、日本では現在約50か所で開催されています。

リレー・フォー・ライフ・ジャパンぐんまは、2013年に初めて開催されて以来、参加者、寄付額ともに全国最大規模に成長してきました。

13回目となる今年も、夜越えのイベントとして10月11日(土)～12日(日)に皆さんと、ALSOKぐんま総合スポーツセンターふれあいグラウンドにて歩みを共にすることができました。昨年好評であった、がんについて正しく学べるドクター講座を今年も開催したほか、がん患者支援につながるセルフウォークリレーを今年初めて実施いたしました。

仲間と『つながり』、ウォークを『つなげて』、未来へ想いを『つなげる』イベントになったのではないのでしょうか。

昨日、今日と、たくさんの方々にお越しいただき、今年もこのリレーイベントを開催することができましたこと、心から嬉しく思っています。

リレー・フォー・ライフの活動は一人の力では成し得ません。サバイバーの方やサバイバーを支える方、そしてがん征圧を願う地域の皆さんの力で今日という日が実現しました。改めて、家族や仲間、医療従事者の方々、実行委員会の皆さん、ボランティアの学生の皆さん、そしてチームとして、個人として参加していただいた、たくさんの仲間の皆さんにお礼申し上げます。

また、協賛や募金をお寄せいただいた皆様のお力添え、誠にありがとうございました。

皆様と共に歩いたこの二日間、多くの事を語り、励まし合い、そしてそれぞれの大切な人を偲ぶことができました。

私たちは常に「がんで苦しむ人をなくしたい」という大きな目標に向かって進んでいます。簡単な道のりではありませんが、今日このイベントを成功させることができ、その目標に近づいたと実感しました。少しずつではあるかもしれませんが、この歩みを止めることなく、これからも皆さんと進み続けていきたいと思いをします。

今後もこの群馬の地から、がんに立ち向かう力を全国へ、そして未来へと届けていきます。

RFLJぐんま実行委員会



つながろう がんを負けないいのちのリレー

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2025ぐんま

イベントレポート

10/10金

気持ちいい青空の下で周回コース、会場設営が始まりました。イベント当日は雨予報、雨合羽を忘れずに。



10/11土

雨を吹き飛ばす、力強いメッセージ

14:00

朝から雨が降り続く中69チームの参加者が各チームののぼり旗や横断幕を持って整列しました。大島実行委員長の開会宣言でいよいよ、RFLJ2025ぐんまがスタートします。

名誉会長である山本一太知事が、熱いメッセージの後にサプライズのアコースティックギターの弾き語りでエールを送ります。会場は大きな拍手で沸き、歌の途中から空が明るくなってきました。



サバイバースウォークからスタート、勇気と希望を分かち合う瞬間

14:35

がんと闘ってきたサバイバーを称えるサバイバースウォークから周回が始まります。大きな拍手や掛け声の中、笑顔で手を振ります。続けて役員へと先頭をバトンタッチし全体ウォークが始まります。



14:45

ステージからは、ショーや楽器演奏等が響き歩みに力を与えてくれます。サバイバーステントでは2025サバイバースフラッグの作成やシールアンケートを実施し、がん患者同士の交流の場となっていました。各種展示コーナー、チャリティーくじの販売も大盛況のうちに終了しました。



15:15 16:30

県立がんセンターの尾嶋仁副院長が「みんなに知ってほしいがんの事」、群馬大学の鈴木和浩教授らが前立腺がんについてドクター講座を行いました。訪れた人は熱心に耳を傾け、質疑応答の時間には多くの質問が寄せられるなど、大変有意義な機会となりました。



静かに想いを馳せる、追悼と感謝の光

17:00

雨がすっかり上がり日が暮れ始めたころ、学生ボランティアをはじめ参加者と一緒にルミナリエに明かりを灯しました。ろうソクの灯で浮かび上がるルミナリエのメッセージは温かく、私たちに希望を与えてくれます。



19:00

静寂の中、がんで亡くなった方々を偲ぶ「エンブティテーブルセレモニー」が始まります。小さなテーブルには白いクロスがかけられ誰も座っていない席があります。この席はここに来ることができなかった方の席を表しています。大切な人を思い出し、偲ぶ時間は静かに、ゆったりと流れていきます。



10/12日

静寂と希望の夜明け

5:00

夜通し交代しながら多くの人が歩き続け、静かに夜が明けようとしています。夜明けの紫「ドーンパープル」は今年もきれいに見ることができました。



7:30

キラキラと輝く太陽を浴びながら群馬ラフターヨガクラブによるラフターヨガ、熊倉みなみ先生(産科婦人科館出張 佐藤病院)のモーニングヨガで夜間の冷えとウォークで疲れた体をほぐすと、ゆっくりとからだが目覚めていきます。半袖で過ごせるような陽気になると、群馬県バトン協会の演技がはじまりました。ポップな曲に乗せて元気いっぱいフレッシュなエールをありがとう!



10:30

参加者全員笑顔でフィナルラップを歩き切ると、RFLJ2025ぐんまのゴールを迎えます。武藤副実行委員長が「ぐんまからのメッセージ」を発信しました。来年も必ず会場で集まりましょう。



メディア取材を受けました

- 群馬テレビ 10月23日(木)
- 「ニュース×情報 がるがる」
- 内で丁寧に取材された特集が放送されました。
- YouTubeチャンネルからご覧いただけます。
- <https://www.youtube.com/watch?v=zSn6qDdZCdc>



日本対がん協会 梅田正行理事長も参加しました



財団からのお知らせ

複十字シール募金活動を行っています

結核を中心とした胸の病気をなくし、健康で明るい社会をつくるために実施している「複十字シール運動」は、募金活動を行うとともに、病気への理解を深め、予防の大切さを伝えています。2024年度の複十字シール運動で群馬県内において寄せられた皆様の募金額は2,731,438円に達しました。お預かりした募金は胸の病気の普及啓発、開発途上国の結核対策支援、結核等の調査研究の活動に大切に活用させていただきます。

2025年度も複十字シール運動が実施されていますので、引き続き複十字シール運動にご協力をお願いいたします。

●運動期間：令和7年8月1日～12月31日
(運動期間以外も募金を受け付けております)



群馬県健康福祉部長を表敬訪問しました

複十字シール運動開始にあたり、令和7年8月1日（金）、群馬県地域婦人団体連合会（結核予防婦人会）の大竹会長のほか、役員と財団職員が群馬県健康福祉部國代部長を表敬訪問しました。

複十字シール運動の趣旨や県内の結核の現状などを説明するとともに、キャンペーンで配布するグッズをお渡しし、複十字シールへのご協力をお願いしました。



がん征圧月間のメディア掲載について

9月のがん征圧月間にちなみ、上毛新聞社から取材を受けました。コロナ禍以降の県内がん検診受診率や市町村集団検診受診者数の推移、また、課題として若年層の未受診があることなどが、最新の子宮頸がん検診車等の紹介と合わせ、特集記事として掲載されました。



取材に対応する様子

中学生が職場体験学習に訪れました

群馬県健康づくり財団では、市内中学生の職場体験の受け入れを実施しています。

将来、医療職を志望する中学2年生の生徒さんらが、職場体験学習として施設内の見学や、模擬健診として実際に血圧測定や聴力検査、視力検査を職員を相手に行うなどの体験をしました。皆さん緊張気味の様子でしたが、熱心に取り組んでいました。

9月 3日～ 5日 桂萱中学校 11月 5日～ 7日 芳賀中学校
11月12日～13日 大胡中学校 12月 9日～11日 鎌倉中学校



子宮頸がん予防啓発のため、無償で講師派遣を行っています

群馬県健康づくり財団では、子宮頸がん予防プロジェクトチームを2024年に発足させ、子宮頸がんの予防、早期発見、早期治療の重要性を啓発することを目的として講師派遣を積極的に行っています。県内小中学校ではがん教育を、地域婦人団体や企業の職員研修等では子宮頸がん検診の受診勧奨を目的としてさまざまなところへ出向きます。講師派遣に関するお問い合わせ、お申込みは下記までお願いします。

〈問い合わせ先〉
TEL 027-269-7811
群馬県健康づくり財団
子宮頸がん予防プロジェクトチーム



9月3日（水） 群馬県地域婦人団体連合会での講演会
9月16日（火） 嬬恋村立嬬恋中学校（2年生）でのがん教育

第14回高崎美スタイルマラソン2025に協賛しました

2025年10月13日（月・祝）高崎もてなし広場をメイン会場に行われた第14回子宮頸がん予防啓発高崎美スタイルマラソン（主催：高崎美スタイルマラソン実行委員会）に協賛し、子宮頸がん検診車を無償で貸出しました。会場ではワンコインで子宮頸がん検診を受けることができ、マラソンを終えたランナーが受診していました。

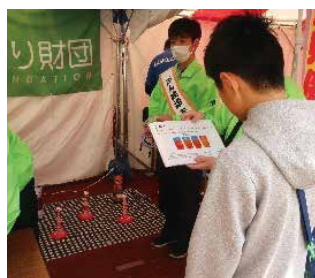
また、当財団の職員やその家族もランナーや応援で参加しました。



第35回ぐんまマラソンに協賛しました

2025年11月3日（月・祝）正田醤油スタジアム群馬をメイン会場に行われた第35回ぐんまマラソンに協賛、ブースを出展しました。ブースでは、子宮頸がんに関するシールアンケート、血管年齢測定に加え、お子様連れの家族にも楽しんでいただけるよう健康輪投げクイズを実施しました。リーフレットを手渡し、マラソン参加者、来場者にがん検診の定期的な受診を呼びかけました。

また、当財団からは26名の職員やその家族らが各種マラソンに出場し、汗を流しました。



リレー・フォー・ライフ・ジャパン2025ぐんまに参加しました

10月11・12日に開催されたリレー・フォー・ライフ・ジャパン2025ぐんまに、群馬県健康づくり財団もチームとして参加しました。また、今年は職員有志による、チャリティーバザーも初めて実施し、売上金を寄付することができました。

また、後日、JA群馬厚生連様から、イベント当日の野菜販売売上金の全額をご寄付いただき、実行委員会にお渡ししました。



編集
後記

秋はリレー・フォー・ライフ・ジャパンをはじめ、多岐にわたる活動が続きました。多くの方と目標を一つに進んでいくと、非常に大きな力になることを改めて実感しました。皆様の温かい御支援と御協力のおかげで、その大きな力で目標を成し遂げる素晴らしい経験ができました。これからも皆様と共に歩めるよう、尽力してまいります。（A）

健やかぐんま
vol.50 2025 Autumn

編集●公益財団法人群馬県健康づくり財団 総務部 企画広報課
発行●公益財団法人群馬県健康づくり財団 理事長 須藤 英仁
〒371-0005 群馬県前橋市堀之下町16-1
TEL.027-269-7811 FAX.027-269-8928
印刷●上毎印刷工業株式会社

